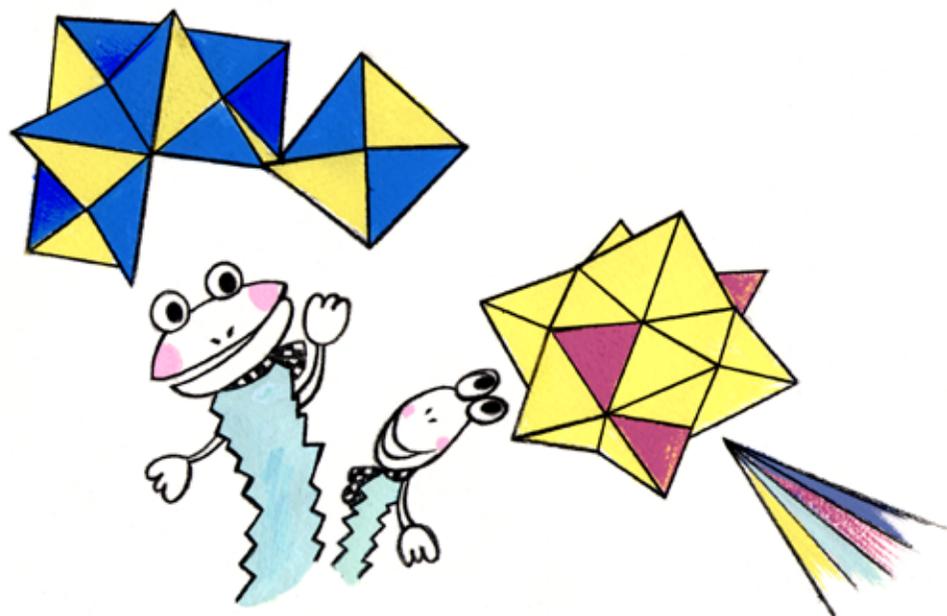


ふしぎな箱



小学校体育館・小会場上演作品

「オカピぼうやのちいさなぼうけん」「ふしぎな箱」

- 上演時間 1時間10分(休憩15分含む)
- 編成 キャスト4名 スタッフ1名/計5名
- 運搬 2tトラック1台/2名 公共交通機関利用 3名
- 諸経費 (上演料+交通費+車輛経費+宿泊費)+宣伝材料費



オカピぼうやの ちいさなぼうけん





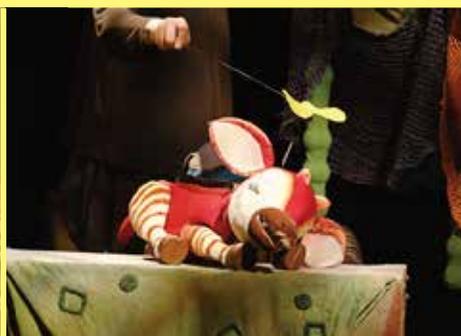
オカピぼうやの ちいさなぼうけん

作/岸本真理子(ひさかたチャイルド刊) 脚色/吉川安志 演出/小原美紗
美術/坂上浩士 音楽/権頭真由 照明/芦辺 靖 ムーブメント指導/小泉憲央

『オカピぼうやのちいさなぼうけん』は、ブーク発の「絵本プロジェクト」として、出版社のひさかたチャイルドと共に、4年かけて温めてきた作品です。人形劇化とともに、2021年末に絵本も出版されました。絵本から人形劇に、人形劇から絵本に、世界が広がっていく作品が誕生しました。

ぼくはオカピ! キリンでも、シマウマでも、スイギュウでもないよ!
ある日、オカピぼうやが目覚めると、お母さんがいません。ぼうやはひとりで探しに出かけることにしました。行く先で出会うのは、キリン、シマウマ、スイギュウぼうや・・・みんなどこか似てるけど、ぜんぜん違う動物たち。さて、おかあさんは見つかるかな?

オカピぼうやの、はじめてのぼうけんです。



よろしくね、オカピぼうや!

原作 岸本真理子

私が初めて「オカピ」を目にしたとき「あなたは だあれ?」と、おもわずつぶやきました。

このへんでこりんな生き物「オカピ」のことを調べていくうちに、私の心はもうすっかり奪われてしまったのです。そして、オカピのこどもであれば、いったい自分は誰なのか、このアイデンティティー探しの悩みは深いのではないかしらと、ちょっと物語りに登場してもらいたくなりました。

そのようにして生まれたおはなしが『オカピぼうやのちいさなぼうけん』です。

このおはなしは、長谷川義史さんをお願いをして絵本の出版がされました。またそれに先立ち人形劇化が実現し、オカピぼうやはたくさんのおみなさんに会えることになりました。

ところで実際に生存しているオカピは絶滅危惧種に指定されています。原因は長年にわたるコンゴ民主共和国の内戦と、環境破壊にあると言われて

います。
熱帯雨林の奥深く、ひっそりと生息しているオカピたちが、いつまでも平和に地球上で生き続けてほしい。まずはこのおはなしが多くの方に「オカピ」の存在を知っていただける懸け橋になってもらえることを切に願います。

小さな冒険者たちへ

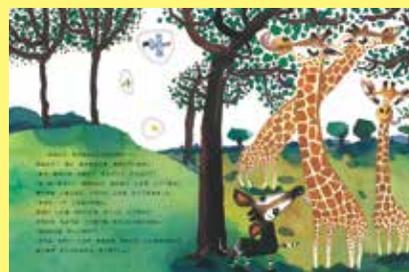
演出 小原美紗

赤ちゃんが初めて寝返りをうった時、ハイハイでお部屋の隅々まで行けるようになった時、掴まり立ちで視界がぐーんと高くなるのを知った時、自転車で転ばずにこぎ出せた時……小さな小さな冒険とともに、子どもたちは成長してゆきます。わたしたち大人は、子どもたちがいつでも、この小さな冒険に踏み出せるように、近く遠く、時に手を差し伸べるのを我慢しながら見守ります。頬を上気させ、ちょっぴり成長して帰ってくる子どもたちを、いつでも迎えてあげられるように。

身体中いっぱい好奇心で満たし、オカピのぼうやは初めて一人で出かけます。さあ、みなさんも一緒に出かけませんか?大丈夫、ちゃんと誰かが見ていてくれるから。小さな冒険者たち、たくさんの愛情を礎に、何度でも世界へ飛び立て…!



▲絵本表紙



▲絵本中面

ふしぎな箱

構成・演出プラン/竹内とよ子 演出/岸本真理子 美術/斉藤英一
照明/阿部千賀子 音響効果/宮沢 緑 箱考案/吉本直貴(造形作家)

たのしい音楽によって、
いろいろに変わるふしぎな箱。
さてさて、今度は何ができるのかな?



予想もつかない楽しみが 構成・演出プラン 竹内とよ子

一見、なんの変哲もない四角い箱が、予想もつかない形をつくり、変化していく「ふしぎな箱」。この箱のことを知ったのは今から三十数年前。劇団員の子どもが通う保育園で、廃品をリサイクルして様々なおもちゃを作り、「おもちゃはかせ」と呼ばれ慕われていた園長先生が、子どもたちと遊ぶのを楽しみにつくった箱を見せてもらったのが始まりでした。

その箱を動かしてみると、次から次へと情景が浮び、こんな箱を考案した人に感心しながら、これに人形を交えて遊ばせてみたらどうなるだろうと、やってみたのがこの舞台です。

この箱は、二つの箱の組み合わせ方で、まだまだたくさんの形や情景をつくることができます。みなさんもぜひ箱をつくって楽しんでみてください。